

開港とともに「海防」として機能した軍港都市

将軍徳川家茂が「海内無双の好港」と評し、将軍上洛艦隊の駐留地や幕府軍の兵員・物資の輸送拠点となった「将軍の港」。台場築造、軍艦運用、石炭供給、日米の開港交渉、外国人居留地など、一大港湾の形成過程と機能の実像を、最新研究から描き出す。



2026年5月下旬刊行

【幕末】

戎光祥近代史論集 6
將軍の港 兵庫・神戸
 一幕末の海防・開港と港湾都市構想

A5判 / 並製 / 372ページ

高久智広 編著 本体価格：5,800円＋税

ジャンル 人文書、日本史

【目次】

総論 「將軍の港」とは何か？

第1部 一八～一九世紀の社会変容と西摂津地域

- I 近世後期幕領における地域資産の形成と灘目酒造
- II 浜本陣と西国諸藩
- III 慶応二年の打ちこわしと兵庫の政治・軍事拠点化

第2部 幕府の海防・開港政策の展開と兵庫・神戸

- I 幕末期兵庫津の海防と明石藩
- II 嘉永・安政期の大坂城代土屋寅直の海防政策
- III 天保山台場築造に関わった大坂町奉行所の与力・同心
- IV 幕府の艦船運用と江戸・兵庫
- V 神戸開港前夜の炭鉱開発
- VI 兵庫開港の経緯
- VII 幕府官僚柴田剛中の視点からみた兵庫開港の実像

第3部 神戸開港をめぐって

- I 史料からたどる開港期の神戸の人びと

- II 慶応三年江戸の社会情勢と外国人
- III 幕末維新时期における西摂沿海地域秩序の解体
- IV 旧神戸海軍操練所から明治期の港湾遺構の発掘調査
- V 手彩色写真にみる開港地神戸

関連書

戎光祥近代史論集 5
幕末の開港都市・横浜
 国際貿易港のルーツを探る
 横浜開港資料館・横浜幕末維新史研究会 編
 5800円＋税

ISBN : 978-4-86403-531-6
 368ページ

幕末の開港都市横浜
 国際貿易港のルーツを探る
 迫り来る欧米諸国と近代化の荒波
 日本を代表する国際都市への発展過程を政治外交、経済取引、軍事、海防、居留地形成といった多角的な視点から読み解く！

ご注文はとちらまで FAX 03-5275-3365

注文書	帳合・貴書店名印	フリー入帖
	冊	戎光祥近代史論集 6 將軍の港 兵庫・神戸 ISBN 978-4-86403-622-1 5800円(本体) 高久智広 編著